

一茶の俳句

1 春の俳句

- ・ 居並んで達磨も雛の仲間哉 (文政句帖)
- ・ 鶯がちよいと隣のついでかな (七番日記)
- ・ 鶯やちよつと来るにも親子連れ (文政句帖)
- ・ 梅咲けど鶯なけど一人かな (享和句帖)
- ・ 親犬が瀬踏してけり雪げ川 (浅黄空)
- ・ 親負て子の手を引てさくら哉 (西紀書込)
- ・ おわが世やそこらの草も餅になる (七番日記)
- ・ 御雛をわらふりたがりて這子哉 (七番日記)
- ・ 陽炎や蚊のわく藪もうつくしき (文化句帖)
- ・ 観音のあらんかぎりは桜かな (七番日記)
- ・ 木のおのおの名乗り出たる木の芽哉 (千題集)
- ・ 草餅にいつか来て居る小蝶哉 (七番日記)
- ・ 子もち蜂あくせく蜜を(か)せぐ也 (八番日記)
- ・ 三文が霞見にけり遠眼鏡 (霞の碑)
- ・ 信濃路や山の上にも田植之傘 (八番日記)
- ・ しなのちや雪が消れば蚊がさはぐ (七番日記)
- ・ 雀の子そこのけそこのけお馬が通る (八番日記)
- ・ 凧抱いたなりですやすや寝たりけり (七番日記)
- ・ 父ありて母ありて花に袖ぬ日哉 (寛政句帖)
- ・ 大根引き大根で道を教へけり (七番日記)
- ・ 大名を馬からおろす桜哉 (文政句帖)
- ・ 蝶一つ舞台せましと狂ふ哉 (西国紀行)
- ・ 散花の桜きげんや小犬ども (七番日記)
- ・ 天からも降たるやうな桜哉 (文政九・十年句帖写)
- ・ 鳴く猫に赤ん目をして手まりかな (八番日記)
- ・ 菜の花やかすみの裾に少しずつ (七番日記)
- ・ 菜の煮える湯の湧き口や春の雨 (八番日記)
- ・ なりふりも親そつくりの子猫哉 (文政句帖)

- ・ 日本はは入り口から桜かな (七番日記)
- ・ 庭の蝶子が這えば飛び這えば飛び (浅黄空)
- ・ 寐ころんで蝶泊らせる外湯哉 (西国紀行)
- ・ 長閑さや浅間のけぶり昼の月 (八番日記)
- ・ 橋守も山吹衣着たりけり (七番日記)
- ・ 初缸もわがば盛りやな山の (文政句帖)
- ・ 初夢に古郷を見て涙哉 (寛政句帖)
- ・ 春風の夜水かかりし山田哉 (文化句帖)
- ・ 春風や餅に引かれて善光寺 (七番日記)
- ・ 春雨や猫に踊りを教える子 (八番日記)
- ・ 春雨や鶯はれ残りの鶉が鳴く (七番日記)
- ・ 春風や侍二人犬の供 (八番日記)
- ・ 春めだや藪ありて雪ありて雪 (八番日記)
- ・ ひな棚にちよんと直め小猫哉 (八番日記)
- ・ 古雛やがらくた店の日向ぼこ (文政句帖)
- ・ 古郷や餅につき込春の雪 (文化句帖)
- ・ おいらんどや桜の花をもちながら (文政句帖)
- ・ 窓明て蝶を見送る野原哉 (寛政句帖)
- ・ 紫の袖に散りけり春の雪 (享和句帖)
- ・ 見かぎりし古郷の山の桜哉 (享和句帖)
- ・ 御仏や寝ておわしても花と銭 (おらが春)
- ・ めでたきも中位なりおらが春 (おらが春)
- ・ やせ蛙なまけるな一茶これにあり (七番日記)
- ・ 夕月や鍋の中にて鳴く田螺 (文政版)
- ・ 悠然として山を見る蛙かな (七番日記)
- ・ 雪とけて村いっぱいの子どもかな (七番日記)
- ・ 湯けぶりのふはふは蝶もはり哉 (文政句帖)
- ・ 程の道のしめりや朝霞 (庚申元除楽)
- ・ 我國は草花を咲にけり (発句題叢)
- ・ 我庵や貧乏がくしの雪とけぬ (七番日記)
- ・ われと来て遊べや親のない雀 (おらが春)

2 夏の俳句

・青梅に手掻かけて寝る蛙哉
(寛政三年紀行)

・紫陽花や巳が気儘の紋り染
(五十三駅)

・暑ぞよけふも一日遊び雲
(八番日記)

・暑き夜をととう善光寺詣り哉
(八番日記)

・あつぱれの大若竹ぞ見ぬうちに
(八番日記)

・御祭りや誰好宝の赤扇
(七番日記)

・蟻の道雲の峰よりつづきけん
(八番日記)

・家ありて又家ありて夏木立
(享和句帖)

・産声に降りつもりけり花と金
(文政句帖)

・損した子がだだをこねるや田草取
(文政句帖)

・大 螢ゆらりゆらりと通れけり
(八番日記)

・おくればせに我が畠も茄子哉
(享和句帖)

・親猫が蚤をも噛んでくれにけり
(だん袋)

・鯛牛 そろそろ登れ富士の山
(文政版)

・雷をしたらぬ寝坊の寝徳哉
(文政句帖)

・喰ぶとり寝ぶとり暑し暑し哉
(七番日記)

・雲を吐く口つきしたり引す暑さしさ哉
(おらが春)

・下下も下下下下の下国の涼しさよ
(七番日記)

・極楽に片足かけて夕涼
(八番日記)

・極 蓑虫の暑くるしさよくるるしさよ
(七番日記)

・五十軒天窓をかざす扇かな
(真蹟)

・五月雨や雪はいづこのしなの山
(寛政三年紀行)

・しづかさや湖氷の底の雲のみね
(寛政句帖)

・信濃路の田植過けり 風
(享和句帖)

・しなの路の山が荷になる暑哉
(だん袋)

・すず風や力いっぱいいきりぎりす
(七番日記)

・涼よとのゆるしの出た門の月
(終焉日記)

・大の字に寝て涼しさよ寂しさよ
(七番日記)

・大の字に寝て見たりけり雲の峰
(七番日記)

・父ありて明ぼの見たし青田原
(寛政句帖)

・散ぼたん昨日の雨をこぼす哉
(七番日記)

・夏の蟬なくが此世の栄よう哉
(書簡)

・夏山に洗ふたやうな日の出哉
(享和句帖)

・夏山や一足ずつに海見ゆる
(文政句帖)

・寝せつけし子の洗濯や夏の月
(だん袋)

・野休みの片袖暑き木陰哉
(発句題叢)

・葉がくれの赤い李をなく小犬
(文化句帖)

・鉢植の一つほしさよとぶ螢
(八番日記)

・母馬が番して吞す清水哉
(八番日記)

・母おやが涼がてらの針仕事
(文政句帖)

・風鈴はちんとも云ず蝉の声
(七番日記)

・路の葉にぽんと穴明く暑哉
(七番日記)

・ふるさとや寄る花さはるも茨の花
(八番日記)

・蛇も一皮むけて涼しいか
(七番日記)

・螢見の案内するや庵の犬
(終焉日記)

・時鳥我も気相のよき日也
(七番日記)

・三粒でもそりや夕立よ夕立よ
(梅塵八番)

・やれ打つなはえが手をする
(享和句帖)

・夕顔にひさしぶりなる月哉
(書簡)

・焼け社のほかりほかりや蚤さわぐ
(七番日記)

・よそ並に実を結たる野梅哉
(終焉日記)

・夜夜にかまけられたる蚤蚊哉
(七番日記)

・涼風の曲がりくねって来たりけり
(七番日記)

・我庵や小川をかりて冷し瓜
(七番日記)

・涼風も隣の松のあまり哉
(文政句帖)

・涼 風や何喰はせても二人前
(七番日記)

・我庵は草も夏瘦したりけり
(七番日記)

・わか様がせうぶをしやぶる湯どの哉
(七番日記)

- 秋の俳句はいくに歩いて逃げぬ螢ほたるかな (七番日記)
- 秋の夜や旅の男の針仕事はりしごとかな (寛政句帖)
- あさがおに子供こどもの多き在所しよ哉 (文化句帖)
- あのやうに我も老おきなか秋のてふ (文化句帖)
- 一番の不二見所や葡萄棚 (文化句帖)
- 一本で秋引受ける鶏頭けいず哉 (八番日記)
- 一文の花火も玉や玉や哉 (文政句帖)
- 古郷ふるさとに流入りゅうりゅうけり天の川 (八番日記)
- うつくしや障子の穴の天の川 (七番日記)
- うつくしやあら美しや毒きのこ (七番日記)
- 牛の子が旅に立つなり秋の雨 (七番日記)
- 馬の子の故郷はなるる秋の雨 (享和句帖)
- 縁の猫もったいがおや菊の花 (八番日記)
- 柿の木であえと答える小僧かな (八番日記)
- 門の月ことに男松のいさみ声 (文政版)
- 客ぶりや青柿あおかき渋くないない (八番日記)
- 沐着山へ流れ込みけり天の川 (七番日記)
- けふからは日本の雁かりぞ楽たのしみに寝よ (七番日記)
- 草原や子にひろはする一ひとつ栗 (七番日記)
- 氷までみやげのうちや袂たもとから (文政句帖)
- 小言いふ相手のほし秋の暮 (文政句帖)
- ことし米親と云字を拝みけり (八番日記)
- 栗拾ひねんねんころり云ながら (文政句帖)
- 子どもらや鳥も交る栗拾ひ (文政句帖)
- ころろぎに燃かかると夕哉 (文化五六句記)
- 小粒でも力ちからんで立や唐がらし (文政句帖)
- 子どもらが狐きつねのまねも芒哉 (八番日記)
- さあ来いと大口明けしざくろ哉 (七番日記)
- しなのじやそばの白さもぞつとする (七番日記)
- 鈴がらがら虫も願ひのあればこそ (七番日記)

- 雀すずめらも真似まねしてとぶや渡り鳥わたどり (文政句帖)
- づぶ濡れの大名を見る炬燵炬燵かな (八番日記)
- 涼しさは七夕竹の夜露かな (文政句帖)
- せきれいがたたいて見たるかぼちや哉 (八番日記)
- そは時や月のしなのの善光寺 (七番日記)
- 誰たがのの星ほしやら落る秋の風 (七番日記)
- 高枝や淡柿あかじ一つなつかし哉すび (七番日記)
- 月さすや嫁にくはさぬ大茄子 (七番日記)
- 露の玉つまんで見たるわらべ哉 (八番日記)
- 露の世は露の世ながらさりながら (おらが春)
- 釣棚つりだまにばかり口をあけび哉 (文政句帖)
- 枒まての子やいく日転まてげてふもと迄 (七番日記)
- 団栗だんりの寝んねんころりこもり哉 (八番日記)
- 団栗とはねつくらす子猫かな (八番日記)
- 拾ひろれぬ栗の見事みごとよおほき (七番日記)
- 七転ななび八起はちの花よ女郎花 (七番日記)
- 猫の子のちよいとおさえる木の葉かな (八番日記)
- 寝た犬いぬにふわとかぶさる一葉ひとひかな (七番日記)
- のら猫も宿とどと定る萩の花 (七番日記)
- 化されぬ茸しづくも紅べにを付つて出た (八番日記)
- 半分は汗の玉かよ稲の露 (文政句帖)
- 古郷ふるさとに似たる山をかぼへて月見哉 (西国書込)
- 町中や列を正して赤蜻蛉あかとんぼ (文政句帖)
- 虫喰が一番栗ぞ一ばんぞ (七番日記)
- 名月なづきをどつてくれろと泣く子かな (おらが春)
- 名月の御名代ごなごかよ白うさぎ (梅塵八番)
- やまがわは芸うまをしながらわたりけり (文政句帖)
- 夕月や涼すずがてらの墓参むらみ (七番日記)

4 冬あきの俳句はいく

浅漬あさじに一味付し氷哉 (七番日記)

朝晴にばちばち炭のきげん哉 (七番日記)

あばら骨あばらに寒き夜也けり (七番日記)

凍とけぬうちに参加るや善光寺 (七番日記)

入口の氷柱こほりをはらふつららかなない (文政句帖)

薄壁や鼠穴より寒が入 (文政句帖)

うす壁につんづと寒が入にけり (七番日記)

うわむしや年暮れきりし夜の空 (文政句帖)

おまさうな雪がふうはりふうはりと (七番日記)

うらの山雪ごさつたぞはやばやない (文政句帖)

思ふ人の側へ割込む巨燧哉 (寛政句帖)

門先や童の作る雪の山 (八番日記)

門島や猫をじらしておぼ木の葉 (八番日記)

寒月や喰つきささな鬼瓦 (七番日記)

義仲寺へいそぎあ候はつしぐれ (しぐれ会)

草の戸やどちの穴から春が来る (七番日記)

氷たでみやげのうちや袂かた (文政句帖)

子宝がきやららきやら笑ふ火火哉 (おらが春)

これがまあ終のすみかか雪五尺 (七番日記)

ざぶりざぶりざぶり雨ふるかれの哉 (享和句帖)

さぼてんた上坐に直す冬至哉 (七番日記)

寒き夜や我身をわれが不寝番 (寛政句帖)

寒さにも馴て歩くやしなの道 (八番日記)

しなのちの山が荷になる寒さ哉 (七番日記)

大寒の大い大いとした月よ哉 (七番日記)

大根ひ引き大根で道を教へけり (七番日記)

耕かさぬ罪もいくばく年の暮 (文化句帖)

つぐらから猫が面出すいりり哉 (文政句帖)

つぶ濡れの大名を見る炬燧かな (八番日記)

露の世は露の世ながらさりながら (おらが春)

年の暮れ里にも人通り (寛政句帖)

手拭のねちつたままの氷哉 (文政句帖)

氷かくもあなたまかせの年の暮 (享和句帖)

繩ひ付て子に引せけり丸氷 (八番日記)

猫の子のちよつと押える木の葉かない (八番日記)

猫の子が手でおとす也耳の雪 (書簡)

初雪や一二三四五六人 (八番日記)

はつ雪やいろはにほへと習声 (七番日記)

初雪や山田のかがし老もせず (文化句帖)

ひいき目に見てさへ寒き天窓かな (七番日記)

人ちらり木の葉もちらりほる哉 (八番日記)

火のけなき家つんとして冬椿 (享和句帖)

鼻が小ばかにしたるづきん哉 (七番日記)

ふとんかち道ばか出して雪見かな (八番日記)

冬の夜を真丸に寝る小隅哉 (七番日記)

御私の御鼻の先へつらら哉 (七番日記)

椋鳥と人に呼ばるる寒さかな (八番日記)

餅の出る槌がほしさよ年の暮 (文化句帖)

山里や風呂にうめたる門の雪 (霞の碑)

山寺や雪の底なる鐘の声 (八番日記)

雪ちらりちらり冬至の祝義哉 (八番日記)

雪散るやおどけもいへぬ信濃空 (享和句帖)

松ありて又待つありて餅の音 (享和句帖)

六十の坂を越るぞやつこらさ (七番日記)

我國は子供も鬼を追ひにけり (八番日記)

わが門来さうにしたり配り餅 (七番日記)

童が天窓へのせたるたんぽかな (文政句帖)

わんぱくも一本かつぐ大根哉 (文政句帖)

5 新年の俳句

- ・ 青空にくも一つなし玉の春 (浅黄空)
- ・ 犬の子やかくれんぼする門の松 (七番日記)
- ・ 御地蔵の御首にかける飾り哉 (八番日記)
- ・ 元日にかわいや遍路門に立 (西国書込)
- ・ 元日や上々吉の浅黄空 (浅黄空)
- ・ 北国や家に雪なきお正月 (八番日記)
- ・ 首上りも待たる初日哉 (享和句帖)
- ・ 御祝義に雪も降也どんどやき (七番日記)
- ・ 正月の子供に成て見たき哉 (西紀書込)
- ・ 正月の二つはなまけ始かな (浅黄空)
- ・ 正月は青菜のかゆも祝かな (文政句帖)
- ・ 正月や村の小すみの梅の花とき (文化五六句記)
- ・ 正月やごろりと寝たるとつとき着 (文政句帖)
- ・ 正月や村の小すみの梅の花 (文化五六句記)
- ・ 鳴く猫に 赤ん目をして 手毬かな (八番日記)
- ・ 這へ笑へ二つになるぞけふからは ()
- ・ 春立や弥太郎改はいかい寺 (八番日記)
- ・ 春立や四十年人の飯 (文化句帖)
- ・ 初春も月夜もよそに伏家哉 (文化句帖)
- ・ 古郷や馬も元日いたす顔 (七番日記)
- ・ 蓬菜になんおなんむといふ子哉 (おらが春)
- ・ 我々が顔も初日や御代の松 (享和句帖)
- ・ 我門は昼過からが元日ぞ (七番日記)
- ・ ちさいのはおれが在所のどんど哉 (七番日記)

ここに掲載した一茶の俳句は「一茶ものがたり一信州高山と小林一茶」

(ほおずき書籍) から引用した220句あまりです。一茶のつくった俳句は

この100倍の22,000句もあります。全部をご覧になりたい方は、

google や yafoo で”一茶の俳句データベース”を検索して下さい。